

DERWENT-ACC-NO: 1998-222790

DERWENT-WEEK: 199820

COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Flower holder for flower arrangement
- has magnet which is installed in container to generate
magnetism that holds flower when iron balls, put in
container, are mutually attracted by magnet

PATENT-ASSIGNEE: KANEKAWA K[KANEI]

PRIORITY-DATA: 1996JP-0257310 (August 22, 1996)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PAGES	PUB-DATE	
LANGUAGE		MAIN-IPC	
JP 10064722 A		March 6, 1998	N/A
005	H01F 007/02		

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO
APPL-DATE		
JP 10064722A	N/A	
1996JP-0257310	August 22, 1996	

INT-CL (IPC): H01F007/02

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 10064722A

BASIC-ABSTRACT:

The holder has a container (3) in which several iron balls (1) of predetermined size are put. Flowers (F) are held in the container by the magnetism of a magnet (4) installed in the container when the iron balls are mutually attracted by the magnet.

The surface of each iron ball is coated with a water-keeping material (2).

Water (W) is supplied from the water-keeping material to the flowers.

ADVANTAGE - Holds flowers in arbitrary positions. Enables simple alteration of flower arrangement by changing arbitrary positions of flowers. Prevents generation of refuse since reuse of flower holder is possible for long period of time.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.3/4

TITLE-TERMS: FLOWER HOLD FLOWER ARRANGE MAGNET INSTALLATION
CONTAINER GENERATE

MAGNETISE HOLD FLOWER IRON BALL CONTAINER
MUTUAL ATTRACT MAGNET

DERWENT-CLASS: V02

EPI-CODES: V02-E01;

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N1998-176647

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-64722

(43) 公開日 平成10年(1998) 3月6日

(51) IntCl.⁸

H 0 1 F 7/02

識別記号

庁内整理番号

F I

H 0 1 F 7/02

技術表示箇所

J

審査請求 未請求 請求項の数2 書面 (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平8-257310

(22) 出願日 平成8年(1996) 8月22日

(71) 出願人 594154163

金川 喜八郎

兵庫県神戸市西区狩場台2丁目12-1

(72) 発明者 金川 喜八郎

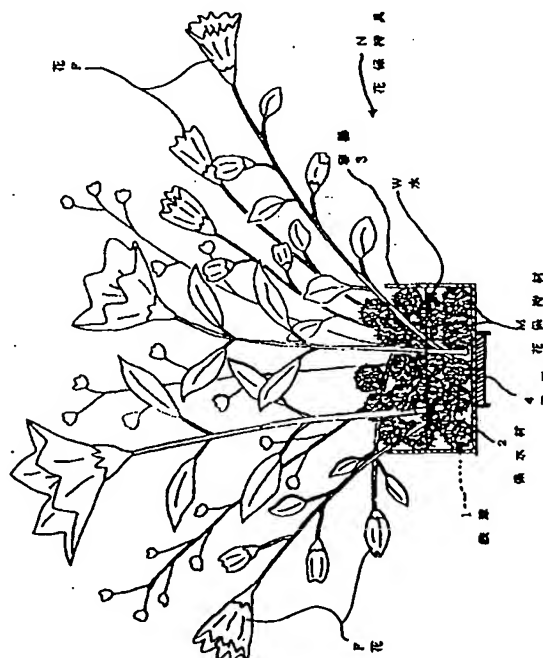
兵庫県神戸市西区狩場台2丁目12-1

(54) 【発明の名称】 フラワーアレンジ用花保持具とそれに使用する花保持材

(57) 【要約】

【課題】 花を任意の位置に容易に保持する花保持具として、再利用が可能なものがない。

【解決手段】 所定の大きさの鉄球1を、磁石4を設置したフラワーアレンジ用容器3に複数個詰めて使用すれば、互いに引き合う鉄球1間に花Fを挿入して保持することが容易にできる花保持具Nを形成することができる。花Fへの水Wは鉄球1表面の保水材2から供給される。また、この花保持具Nは再利用することができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 所定の大きさの鉄球を複数個詰めることができるフラワーアレンジ用容器を設け、該容器に設置した磁石の磁力により、該容器内の鉄球が互いに引き合うことによって花を保持することを特徴とするフラワーアレンジ用花保持具。

【請求項2】 請求項1記載の鉄球の表面を保水材で被覆したことを特徴とするフラワーアレンジ用花保持材。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この出願に係る発明は、花を任意の形態で保持するフラワーアレンジ用の花保持具と、その保持具に使用する花保持材に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来より、この種の花保持材としては、吸水性スポンジが知られている。この吸水性スポンジを用いた花保持具としては、図4の使用状態を示す側断面図のように、所定の容器5 1に入れられた吸水性スポンジ5 2の任意の位置に花Fを差し込み、その位置の吸水性スポンジ5 2に穴を開けて花Fを保持するものである。Gは装飾容器である。この吸水性スポンジ5 2に保持された花Fは、吸水性スポンジ5 2によって花Fの根元まで吸い上げられた容器5 1内の水Wにより開花した状態を保つことができる。この吸水性スポンジ5 2は、保水力も良好で、花Fを挿す位置を選ばないなど、優れた機能を有している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記吸水性スポンジ5 2は、一度花Fを挿すとその部分が空隙になって残るため、再利用しようとしても多くの空隙が残っているので任意の位置に新たな花Fを挿して異なる形態のフラワーアレンジを行うことができなくなってしまう。そのため、この吸水スポンジ5 2は再利用されことなく廃棄処分されている。

【0004】一方、このような吸水性スポンジ5 2は難燃材であるため、廃棄処分する場合には処理に困るという問題もある。

【0005】

【課題を解決するための手段】そこで、上記課題を解決するために、この出願に係る発明は、所定の大きさの鉄球を複数個詰めることができる容器を設け、該容器に設置した磁石の磁力により、該容器内の鉄球が互いに引き合うことにより花を保持することができる花保持具を形成している。これにより互いに引き合う鉄球の任意の位置に花を挿入すれば保持することができる。また、この保持具は再利用することができる。

【0006】

【発明の実施の形態】この出願に係る発明は、所定の大きさの鉄球を複数個詰めることができる容器を設け、該

容器に設置した磁石の磁力により該容器内の鉄球が互いに引き合うので、鉄球間に花を挿入すると、その部分の鉄球間は容易に離れるが磁力により引き合っ花を保持することができる。

【0007】また、上記鉄球を保水材で被覆することにより、花の茎が直接、容器内の水に浸っていないくても、複数の保水材を伝って容器内の水が花に供給される。

【0008】

【実施例】以下、この出願に係る発明の一実施例を図面に基いて説明する。図1はこの出願に係る発明の花保持具Nを示す側断面図であり、(1)は第1実施例の側断面図、(2)は第2実施例の側断面図である。

【0009】図1(1)に示すように、フラワーアレンジする容器3に複数の鉄球1を詰めており、この実施例では容器3を満たす程度入れている。また、容器3の底部に磁石4を設置している。

【0010】この容器3としては、プラスチック等化学合成材や陶磁器等成形しやすく、磁力が容器3内の鉄球1に及びやすい材料で作成すればよい。

【0011】なお、磁石4の容器3への設置箇所としては、図1(2)に示すように、上部に設置してもよい。磁石4の設置箇所は、容器3に詰めた鉄球1が磁力を受けやすい箇所であればよい。

【0012】図2は上記図1の鉄球1の表面を保水材で被覆した実施例の断面図であり、(a)は第1実施例の断面図、(b)は第2実施例の断面図、(c)は第3実施例の断面図である。図2(a)に示すように、鉄球1は、例えば、直径2mm~10mm程度のものを用い、その周囲を1mm~2mm程度の保水材2で被覆している。この保水材2としては内部に保水し易い材料が用いられる。

【0013】この保水材2としては、図2(b)に示すように、1mm~2mm程度の化学繊維2Aを植毛することにより被覆した構成や、図2(c)に示すように、1mm~2mm程度の不織布2Bを被覆した構成であってもよい。

【0014】これら保水材2としては、水が浸透し易く吸い上げて保水し易いものであればよい。特に、多孔質の材質であれば毛管現象により水が浸透し易く保水効果もよい。又、この保水材2は常時水気を含んでいるため、防カビ加工や抗菌加工を施してもよい。

【0015】この保水材2を鉄球1に被覆する方法としては、例えば液状化したスポンジ材料や紙材料を鉄球1の表面に塗布した後に固着させればよい。この被覆方法は、保水材2を鉄球1に固着できる方法であれば他の方法であってもよい。

【0016】以上のように構成された花保持具Nの使用状態を以下に説明する。図3は上記図1(1)に示す花保持具Nの使用状態を示す側断面図であり、図示するように、フラワーアレンジする容器3に図2(b)に示す

3

鉄球1を複数詰めており、この実施例では容器3を満たす程度入れて、容器3内に適当な量の水Wを注ぎ込んでいる。

【0017】この状態で花Fを任意の位置に挿し込むと、鉄球1は磁力により集合しているだけなので、花Fを挿した部分間では容易に離れて挿し込むことができ、挿し込まれた花Fは、その周囲の鉄球1の引き合う接合力で挟んだ状態が保持される。

【0018】このように鉄球1間に複数の花Fを挿し込んでフラワーアレンジしたとしても、その挿した位置の鉄球1は隣接する鉄球1から離れてこれら鉄球1間で花Fを保持するので、花Fを任意の位置に挿し込んで自由なフラワーアレンジをすることが容易にできる。

【0019】その後、アレンジしながら複数の花Fを挿し込んでも、差し込み位置の鉄球1がずれて花Fを所望の位置に保持することができる。

【0020】この実施例では、鉄球1を容器3に満たす程度入れているため、上方の鉄球1の間に花Fを挿し込めば、この花Fをほぼ水平状態に保つこともでき、容器3の形状や大きさと鉄球1の詰める量を調節すれば様々な形態のフラワーアレンジが可能となる。

【0021】しかも、鉄球1に挿された花Fは、鉄球1の周囲に被覆された保水材2により水分が保たれているので、この水を吸って長期間開花状態を保つことができる。

【0022】なお、上記実施例では、球形で同一径の鉄球1を使用した例をしめしているが、鉄球1としては多角形やその他の異形であってもよく、また、必ずしも全て同一形状の鉄球1を使用する必要はなく、異なった形状や異なった径の鉄球1を混合して使用してもよく、使用状態は上記実施例に限定されるものではない。

【0023】さらに、鉄球1の大きさも、フラワーアレ

4

ンジする大きさや花Fの種類に応じて上記大きさと異なる大きさを使用する場合もあり、上記実施例に限定されるものではない。

【0024】

【発明の効果】この出願に係る発明は、以上説明したような形態で実施され、以下に記載するような効果を奏する。

【0025】花保持具によれば、互いに引き合う鉄球間で確実に花を保持し、また、一旦挿した花を任意の位置に挿し変えることも自由にできるため、簡単にフラワーアレンジを変更することが可能となる。しかも、この花保持具は長期にわたり再利用ができるので、ゴミの発生も防止できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この出願に係る発明の花保持具を示す側断面図であり、(1)は第1実施例の側断面図、(2)は第2実施例の側断面図である。

【図2】図1に示す鉄球の断面図であり、(a)は第1実施例の断面図、(b)は第2実施例の断面図、(c)は第3実施例の断面図である。

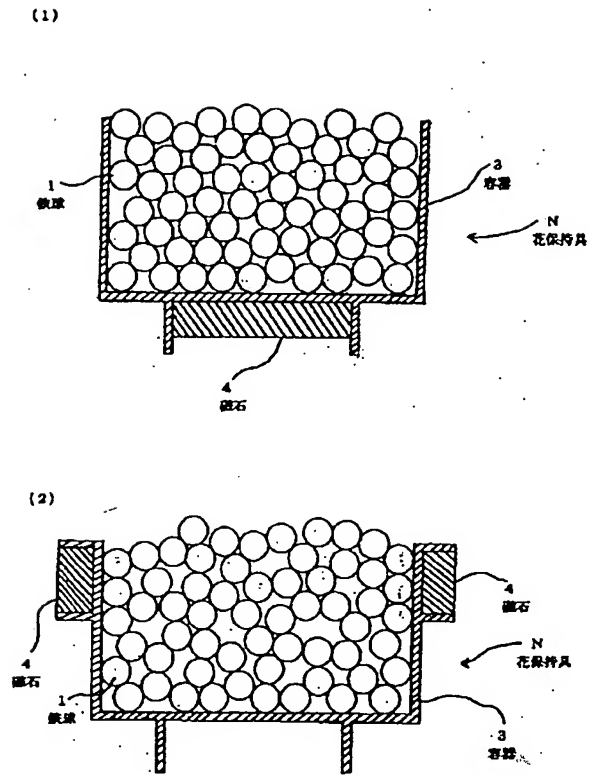
【図3】花保持具の使用状態を示す側断面図である。

【図4】従来の吸水性スポンジの使用状態を示す側断面図である。

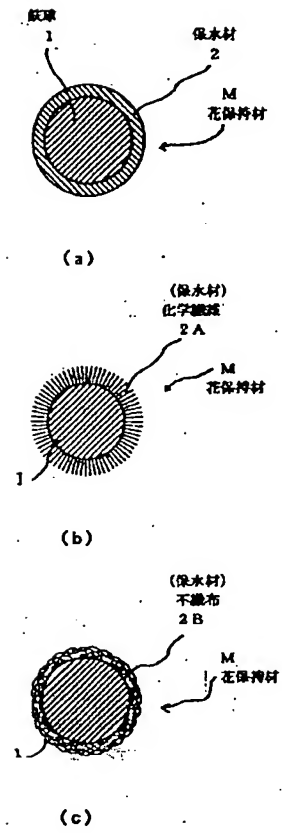
【符号の説明】

1…鉄球
2…保水材
3…容器
4…磁石
F…花
W…水
M…花保持材
N…花保持具

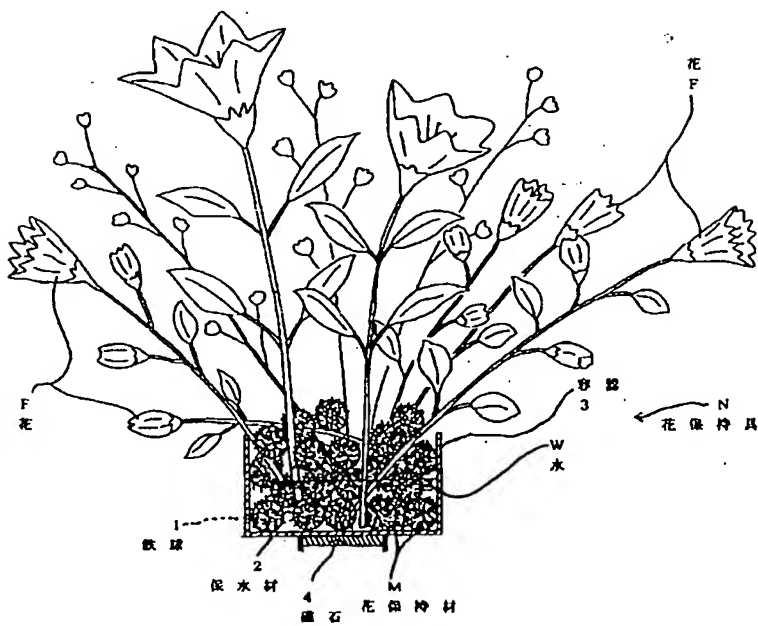
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

